

美術家はストレスのカタマリである。展示会のオープニングパーティーの夜ともなると、あの会場、この会場、二次会、三次会まで口論とケンカが絶えない。とにかく美術家は個性が強い。一党一人、孤独なワンマン党主のようなもの。シリウスでダイレクト、社会をせず、ナイフでロマン派の人間が多いのである。アルコールが程よく体内にまわると、まよまる話もまとまらない。右から左へアップパーパンチ、上から下へ集団トビヒザゲリ、後から斜めに芸術が飛び交い、トゥインチカミ

ンナラン多弁酒宴の会となる。あの騒がしかった美術界のパーティーが、今年はトンと姿を消してしまった。盛んだった夕ループ展が影をひそめ、個展中心の展示会に発表のスタイルが

なつた美術界とならぶかの関係がないと言えなくもない。沈黙黙行、ただ創作するのみ、の体勢に入ったのだろうか？ それとも、この静けさは世紀末十年に突入する前兆か、いずれにし

はすがなく、好んで貧なんかし。時代の空気を嗅ぎ、体内で発酵し続ける表現と創造の病を保持していればこそである。沖細社会で本物の美術家が美術家として大事にされ、市民権を得る時代はいつの時代だろうか。今後の課題は少なくない。企業や資産家のコレクターの出現、活発な美術の研究と評論の

唐獅子

美術の時代

上原 誠男



カット・新里 明

派の人間が多いのである。アルコールが程よく体内にまわると、まよまる話もまとまらない。右から左へアップパーパンチ、上から下へ集団トビヒザゲリ、後から斜めに芸術が飛び交い、トゥインチカミ

移ってきた。やはり作家は個展が勝負、作家の仕事が視えるのは個展以外に方法はないと思うのだが。最近、市内の画廊では質の高い個展が相次いでいる。静かに

ても、今、沖細美術界は変わりつつあり、何か異変が起きている事は確かだ。昔から絵かきは愛人で貧乏と相場が決まっていた。しかし本物の美術家が趣味で絵を描く

成熟、ポリシーある画廊の成長、どれも時間と努力の要る事である。来年は浦添美術館がオープンする。来年こそは、新しい美術の時代の幕開けである事を祈りたい。(画廊沖細代表)